



永井先生からのメッセージ No.18

～元小学校の先生から保護者の皆さんへ～

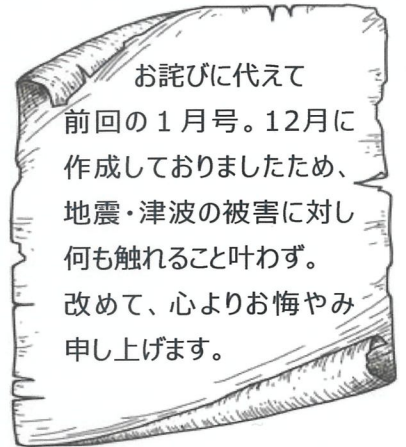
2024年 2月 9日 野毛山幼稚園



【うそは ばれなければ それで いいのかな？】

昨年3月号。紙面の都合で書ききれなかった『うそのお話』。そのつづきです。

- ① 「どうかバレませんように」。『かなり深刻なうそ』は、5～6才頃からだそうです。
- ② 「怒らないから、本当のことを言ってごらん。絶対に、怒らないから。」
この『親のうそ』も、ほぼ同じ時期にスタートしている、ということになります。
- ③ なぜ、そう言い切れるのか。教員生活40年。実に多くの声を聞いてきました。
「もっと言わせてよ」。話が止まらなくなり、授業を切り上げたこともあります。
- ④ 「怒らないって言ったのに、ゲーム取り上げられた。」「隠していた30点のテスト、見せたら、びりびりに破かれた。」
しかし、私は、この時間が好きでした。発言が得意ではない子が、目を輝かせてしゃべり始めたり、仲間の話を聞いて、「そういえば思い出した」と不思議なとびらが開いたり。『うそ・大ピンチ』は、話題の宝庫でもあるのです。
- ⑤ 好きな理由は、もう一つ。私も一人の親。「ああ、よかった。うちだけじゃないんだ。」と少し安心できたからです。
- ⑥ 昭和63年。野毛山幼稚園・第36回卒園生『もも』の子どもたちが2年生になった年。私は本町小で担任に。
以来30年、『うそはバレなければそれでいいのかな？』という道徳の学習を、どの学校・学年でも続けてきました。
- ⑦ 「たとえ怒られても、正直に言うと、心がスッキリするのだ。もし、バレなくても、心の中にモヤモヤが残るのだ。」
このことを教えるのは、家庭ではなかなか難しい。だったら、学校でくり返し指導するしかない。そう思ったからです。
- ⑧ 「廊下のクラス写真、Aさんの顔をペンで塗ったのはぼくで・・・」と突然、語った子もいました。彼は泣きました。
「まだバレてないことなんだけど、テーブルにあった100円を・・・」と、母親のいる授業参観で語った子もいました。
「本当のことを言ったのに、『それもうそだろ』って言われて」。息子の顔がドカーンと頭に浮かんだこともありました。
- ⑨ しかし、時代がめまぐるしく変わる中、『深刻なうそ』も、多種多様に。「ゲームの課金が〇万円で～」「え～!!」
「授業では絶対に言えないこと」とメモを渡してくる高学年もいました。多くは、「ネットの世界」のトラブルです。
- ⑩ 重苦しい話になりすみません。さすがに「卒園・進級の来月号」には・・・と思い、今月、書かせていただきました。
『深刻なうそ』。社会の変化の中、学校が介入できないケースも増え、指導は益々、難しくなると思われます。
そうすると、「家庭の教育力」に頼らざるを得ないことも多くなるかと。よりよき心の成長。願っております。



お詫びに代えて
 前回の1月号。12月に
 作成しておりましたため、
 地震・津波の被害に対し
 何も触れること叶わず。
 改めて、心よりお悔やみ
 申し上げます。



- ▶ 横浜の小学校にも「大谷選手のグローブ」が届き始めているとのこと。「グローブは3個。絵本は、まだ1冊しか送ってないから、あと2冊。」と思い、お届けしてみました。
- ▶ ネットでも、かなり情報公開されていますので、まだご存知でなければ、ご覧になってみてください。



昭和63年10月26日(水)

本町小学校 第2学年3組

男子20名 女子17名 計37名

1988年・昭和 最後の年

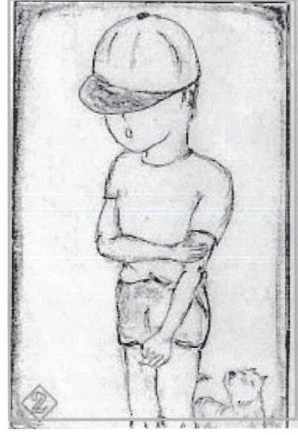
皆さん、今年「44才」になります。

【うそは ばれなければ それで いいのかな?】

お話は出版社のものですが、「紙芝居」で授業がしくて、絵は描きました。

何と言っても、『半ズボン』の丈の短さ。昭和の香り、プンプンです。

絶対にバレないよ。でも、「本当のことを言った方がいいよ」と、太郎くんに言ってあげたい人。なんで？



ガチャン

はっと思ったときは、もうおそかった。お父さんのだいじなうえ木ばちがわれて、じめんにちらばった。ポチとふざけて、かけまわっているうちに、たろうの手がはちうえのまつのえだに、さわってしまったのだ。

——こまったな。どうしよう。

たろうは、立ったままかんがえこんでしまった。

ポチはふしぎそうに、もつとあそぼうよというように、たろうを見上げていた。

「どうしたの。」

いつのまにか、そこへ来ていたお母さんの声。

たろうは、なんといいてよいか、わからなかった。

「あう、ポチが……」

「え、ポチが。まあ、たいへんなことを。ポチは、

いつもおりこうさんなのに。どうしたの……」

たろうは、ますます、こまってしまった。

「ポチが、台に上ろうとして、おっことしたんだ。」

と、小さなこえでいった。

「そうだったの。そんないたずらをしたの。

わるいポチねえ。」

お母さんは、ポチをにわの木につないでしまった。

ポチは、たろうのかおを見て、早くあそびたいよといっているように、クンクンないた。